

完全消去マスター 3

DELETE MASTER DSP II 業務用

デリートマスター DSP II 業務用

発売元 / サポート：株式会社フロンタライン

URL <http://www.fli.co.jp/>

E-mail support@fli.co.jp

完全消去マスター 3 ユーザーズガイド

Copyright 2006 FRONTLINE Inc. All rights reserved.

本マニュアルの著作権およびその他の権利はすべて著作者に帰属します。著作者の書面による許可なく、このマニュアルの内容の全部、もしくは一部を複写、複製、写真によるコピー、製本、翻訳、もしくは電子メディア化ないしは機械読み取りが可能な形態に変換することは固く禁じます。

完全消去マスター、DELETE MASTER は株式会社フロンタラインの商標であり、その他の製品名、会社名、ロゴ等は、それを保有する各社の商標または登録商標です。

FRONTLINE

この度は、完全消去マスター 3 をご購入頂きことにありがとうございます。
本マニュアルは、「完全消去マスター 3 」、及び、「デリートマスター DSP II 業務用」の共通マニュアルとなっております。

「完全消去マスター 3 」をご利用になるユーザ様へ

本マニュアル内の「完全消去マスター 3 」をお読みください。

「デリートマスター DSP II 業務用」をご利用になるユーザ様へ

本マニュアル内の「完全消去マスター 3 」及び「デリートマスター DSP II 業務用」をお読みください。マニュアルに記載の全ての機能をご利用いただけます。

ユーザサポート

株式会社フロントライン

弊社ホームページ：<http://www.fli.co.jp/>

フロントラインのホームページでは、「完全消去マスター 3 」製品、お知らせ、新しいベータ版、特別な申し出、及びその他の新バージョンについての情報を見ることができます。

技術的なお問い合わせ先

本ソフトウェアのサポートは、メール、TEL、FAXにてお受け付けさせていただいております。

メール：support@fli.co.jp

TEL：03-5432-3687

ファックス：03-5432-3688

サポート時間

月～金曜日（土、日、祝祭日は除く）

10:00 ～ 12:00 / 13:00 ～ 17:00

ユーザ登録

ユーザ登録いただきますと、バージョンアップ時に、廉価なアップグレードサービス、及び、弊社製品の優待販売等をメールにてご案内致しますので、必ずご登録ください。

尚、無償バージョンアップがある場合にも、メールにてご案内し、弊社指定の場所よりダウンロードにてご提供させていただきますので、必ずユーザ登録をお願い致します。

弊社のユーザ登録は、オンラインで登録していただくシステムとなっております。弊社ホームページ、<http://www.fli.co.jp/> をご参照ください。

なお、登録葉書は付属してませんので、インターネットへの接続が不可能な場合、1)ご購入製品名とバージョン番号、2)ご購入されたシリアル番号、3)お名前（法人購入の場合はご担当者名）とよみがな、4)ご連絡先（メールアドレス、FAX 番号、電話番号）をお書き添えの上、上記サポート窓口まで、ファクシミリでお送りください。

ご登録後、弊社から、登録完了の案内を差し上げる事はありませんので、よろしくご了承ください。

* 本製品の仕様は予告なく変更されることがあります。予めご了承ください。

プログラム使用許諾契約

お客様は、本製品の購入により、下記の内容に同意していただくことを条件に本製品に含まれるプログラム（以下「許諾プログラム」といいます）および付属する著作物の使用权を取得することができますが、その著作権までがお客様に移転するものではありません。

この使用权に基づき本製品をご使用になるには、株式会社フロンタライン（以下「著作権者」といいます）と、本製品に含まれるプログラムの著作物および付随する著作物についての下記の使用許諾契約に同意していただく必要があります。

許諾プログラムが含まれている媒体の包装が開封されたとき、またはダウンロード等により許諾プログラムを手に入れたとき、お客様は、下記内容に同意したものとみなされ、本契約の締結とさせていただきます。

もし、お客様が下記内容に同意されない場合は、本製品の許諾プログラムが含まれている媒体の包装を破らずまたは包装シールをはがさずに、本製品のすべてをご購入の日から30日以内にご返却頂ければ、購入代金はお返しいたします。

第1条 使用

お客様（法人または個人）は、1本の許諾プログラムを1台のコンピュータでのみ使用することができます。

この場合の使用とは、許諾プログラムがコンピュータのRAM等のメモリ上にあること、またはハードディスクやその他の記録装置に実行可能な形式かその他の形式でインストールされていることをいいます。

許諾プログラムを複数台のコンピュータで使用する場合、もしくはネットワークサーバーにインストールして使用する場合は、別途サイトライセンス等の契約が必要となります。

お客様は、バックアップの目的で、許諾プログラムを1部に限り複製することができます。許諾プログラムの複製物にも本契約の全ての条項が適用されます。

お客様は、本条に規定された場合を除き、許諾プログラムおよび付属する著作物の複製、改変、結合を行うことはできません。但し、許諾プログラムに含まれるデータ、テンプレート等に複製、改変、結合が認められていることが明記されている場合にはこの限りではなく、購入されたお客様のみが明記されている事項に基づき複製、改変、結合することができます。

お客様は、許諾プログラムを、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングすること、またこれらの行為によって知り得た情報をもとにしていかなる創作物も作成することはできません。

お客様は、許諾プログラム、付属する著作物およびその複製物を、第三者に貸与、賃貸、リース、または再使用許諾することはできません。

本契約書は、お客様が適法に使用权の許諾を受けたことの証明書となりますので、大切に保管してください。

第2条 譲渡

お客様は、譲受人が本契約の条件に同意した場合に限り、許諾プログラムおよび付属する著作物を含む本製品、登録ユーザとしての権利等の一切を譲受人に継承することができます。

前項の場合、お客様は許諾プログラムをはじめとした本製品およびその複製物の一切を保持することはできません。また、許諾プログラムがバージョンアップされたものである場合は、バージョンアップされた許諾プログラムおよびその複製物と、バージョンアップされる前の本製品に含まれている内容物およびその複製物を併せて譲渡しなければなりません。

第3条 著作権

本製品に含まれる許諾プログラムおよび付属する著作物の著作権等の知的財産権は、株式会社フロンタラインに帰属し、それらは日本国著作権法ならびにその他の関連して適用される条約・法律によって保護されています。

第4条 機密情報

お客様は、著作権者から提供された本製品に関して知り得た一切の機密情報を第三者に開示してはなりません。

第5条 保証

著作権者は、お客様が本製品を購入してから90日以内に限り、以下の事項について保証します。なお、風水害、地震、火災、その他の災害、第三者による行為、事故、誤使用、悪用等に起因する場合は、当該保証の対象外とします。

- ・ 本製品に含まれる許諾プログラムが、付属する文書類に記載されている機能を有していること
- ・ 本製品に含まれる許諾プログラムの記録媒体または付属する印刷物に損傷、破損等の物理的瑕疵がないこと

前項保証の規定に基づき、お客様が購入日より90日以内に損傷等のある本製品およびその購入の日付を証する書面(またはその写し)を著作権者にご呈示いただければ、著作権者は自己の判断において、代替品の提供または購入代金の返還を行います。代替品についても本契約の全ての条項が適用されるものとしますが、その保証期間は、元の保証期間の残存期間か代替品の納入日より30日間のどちらか長い方とします。

著作権者は、お客様に対し、本条で明示された保証を除き、許諾プログラムの機能、性能、品質がお客様の特定の用途、利用目的に適合することを含むいかなる保証も行いません。

本契約のいかなる規定にもかかわらず、著作権者は、明示または黙示の保証を含むいかなる保証および責任もお客様に対して負わないものとします。

ユーザ登録された方のみ、著作権者のバージョンアップや本製品に関する最新情報提供のサービスを受けることができますので、本契約の条件に同意いただいたお客様は、必ずユーザ登録を行ってください。但し、サービスの対象の範囲、ご提供の時期、方法、ご提供条件等は著作権者独自の裁量に委ねられるものとします。

第6条 責任の制限

著作権者は、いかなる場合においても、許諾プログラムおよび付属する著作物の使用または使用不能に起因する間接的な、特別な、偶発的な、または結果として生じる損害について、一切責任を負いません。この損害とは、許諾プログラムおよび付属する著作物の使用、あるいは誤用に起因する利益の損失、業務の中断、情報の損失、金銭的な損失、精神的損害、あるいは第三者からの損害賠償請求等を含み、かつこれらに限定されません。また、損害発生の可能性について、著作権者が事前に警告されている場合や予見している場合、予見することが可能であった場合も同様とします。

いかなる場合においても、著作権者の責任は、お客様が本製品の対価として著作権者に支払った購入金額を超えるものではありません。

第7条 その他

著作権者が提供するデリートプログラムを使用する場合、第1条に関して、同一のお客様(もしくはその従業員様)が自己の所有するコンピュータについて、一度に一台ずつハードディスクのデータ消去作業をされ、許諾プログラムがコンピュータ内に残らない事を条件に、(最終的に)複数台消去することを許可します。

お客様は、本製品に含まれる許諾プログラムおよび付属する著作物を日本国外に輸出、持ち出す場合には輸出関連法規の規定を順守してください。

著作権者のバージョンアップサービス等により、お客様が許諾プログラムの新バージョンに移行された場合、新バージョンが納入された日をもって本製品の使用权は消滅するものとします。また、新バージョンに特に定めがない場合は、新バージョンの許諾プログラムおよび付属する著作物も本契約に従うものとします。

お客様が本契約のいずれかの条項に違反した場合、著作権者はただちに本契約を解除することができます。その場合、お客様は本製品およびその複製物の全てを破棄または抹消しなければなりません。

著作権者は、お客様に予告なしに、改良のために許諾プログラムの変更を行うことがあります。

本契約の紛争の専属的合意管轄裁判所は、東京地方裁判所とします。

目 次

ユーザサポート	
ユーザ登録	
使用許諾	
完全消去マスター 3	2
1. はじめに	2
1-1. 必要なシステム構成	2
1-2. インストール	2
1-3. ユーザー登録のお願い	3
1-4. 完全消去マスターの起動と終了	3
2. 完全消去マスターの概要	4
2-1. 完全消去マスターとは	4
2-2. 完全消去マスターの機能	4
3. 完全消去マスターを使う	6
ディスク消去	6
3-1. 完全消去マスターの基本画面	6
3-2. 『消去』タブでの操作方法	8
3-3. 『ビューワー』タブでの操作方法	9
3-4. 『ワイプ』タブでの操作方法	10
ファイル消去	10
3-5. ファイル・フォルダの削除	10
4. システムディスクの消去	13
4-1. 起動パーティションを削除する方法	13
4-2. システムディスク消去FDを作成する	13
4-3. システムディスク消去アプリケーションの起動	13
4-4. パーティションの消去	14
4-5. ハードディスクの内容の消去	15
4-6. ビューワー	15
5. インターネットクリーナー機能	16
5-1. 使用方法	16
5-2. タブ一覧	18
 デリートマスター DSP II 業務用	22
1.DSP 機能について	22
2.DSP 版に搭載されている機能	22
3. ハードディスクの内容の消去	22
4.DSP 版の使用方法的例	23
 「完全消去マスター 3」をご利用になるユーザー様へ	
本マニュアル内の「完全消去マスター 3」をお読みください。	
「デリートマスター DSP II 業務用」をご利用になるユーザー様へ	
本マニュアル内の「完全消去マスター 3」及び「デリートマスター DSP II 業務用」をお読み	
ください。マニュアルに記載の全ての機能をご利用いただけます。	

* サポート、及び、ユーザ登録については、表紙裏をご参照ください。

完全消去マスター 3

1. はじめに

1-1. 必要なシステム構成

完全消去マスター 3 は以下のシステム環境で動作します。

対応環境

下記 OS の動作する環境で、つぎの要件を満たしている環境が必要です。

- ・ 64MB 以上のメモリ
- ・ 10MB 以上のハードディスクの空き容量。
- ・ CD-ROM ドライブ(インストールに必要)
- ・ 起動可能なフロッピーディスクドライブまたは起動可能な CD ドライブ (CD 起動もしくは FD 起動によるディスク消去時に必要)

完全消去マスター 3 で「システムディスク消去アプリケーション」を使用する場合が必要です。CD ドライブから起動できるよう BIOS の設定が必要な場合があります。

注意

起動可能な CD は次のような条件で動作します。

- ・ ATAPI 接続の CD-ROM ドライブでは、BIOS の起動オプションの設定で、起動順序に CD ドライブを指定できること。
- ・ SCSI 接続の CD-ROM ドライブでは、SCSI ホストアダプタが CD 起動に対応していること。

Windows アプリケーションの対応 OS

Microsoft Windows XP 日本語版(Home および Professional Edition)

Microsoft Windows Me 日本語版

Microsoft Windows 2000 日本語版

Microsoft Windows NT4.0 日本語版

Microsoft Windows 98 日本語版 (98 および 98Second Edition)

Microsoft Windows 95 日本語版

Windows 95/98/Me では、ファイルのスケジュール消去機能はご利用になれません。

Windows アプリケーションから消去可能なハードディスク

内蔵 IDE、SCSI 接続のハードディスク

IEEE1394 接続のハードディスク

USB1.1 および 2.0 接続のハードディスク

書き込み可能なリムーバブルドライブ

CD ブート時に消去可能なハードディスク / パーティション

BIOS から認識出来るドライブ (主に IDE 及び SCSI) と、その中のパーティション

1-2. インストール

- ・ 周辺機器、PC 本体の順に電源を入れ、Windows を起動させます。
インストール作業を始める前に、稼動しているアプリケーション(ウイルス対策アプリケーション、メールクライアント等)を停止させてください。
- ・ PC 本体に接続された CD-ROM ドライブに完全消去マスターの CD-ROM を挿入してください。
- ・ インストール用の IE の画面が起動しますので、指示に従ってください。画面が表示されない場合、Windows の【スタート】メニューから【ファイル名を指定して実行】を選択してください。
【ファイル名を指定して実行】では『E:\DELETE\setup』と入力してください。この時、CD-ROM ドライブに割り当てられているドライブレターを指定してください(CD-ROM ドライブが「F」ドライブの場合、『F:\DELETE\setup』になります)。

備考

【参照】をクリックすると【ファイルの参照】ダイアログが表示されます。ここで、CD-ROM ドライブを選択すると、CD-ROM の内容が表示されます。この中から「SETUP」をクリックするとインストール画面が表示されます。

- ・インストール画面では、画面の指示にしたがって『次へ』ボタンをクリックすることで手順を進めていきます。
- ・『ユーザーの情報』では使用者の「名前」「会社名」「シリアル番号」を入力していただきます。シリアル番号は製品パッケージ同梱のマニュアル表紙に記載されています。シリアル「FLAM」で始まるハイフンで区切られた英数字の組み合わせられた文字です。

注意

シリアル番号は大文字小文字の区別はありませんが、半角英数で入力してください。

- ・シリアル番号の確認画面が表示されます。間違った番号を入力した場合、前の画面に戻ります。
- ・【インストール先の選択】では、DELETE MASTER をインストールする場所の設定を行います。特に指示しない限り「C:\ProgramFiles\Frontline\完全消去マスター」にインストールします。『次へ』をクリックしてください。他の場所にインストールしたい場合、パスを入力してください。
- ・【プログラムフォルダの選択】では Windows に登録するプログラム名を設定します。特に指示しない限り「完全消去マスター」で登録されます。
- ・【お読みくださいの確認】画面で『「お読みください」を表示する』のチェックボックスをチェックすると、インストール後に本製品の補足的な技術情報を表示します。『次へ』をクリックすると本製品がインストールされます。
- ・インストール作業が完了すると【セットアップの完了】画面が表示されます。『はい、直ちにコンピュータを再起動します』を選択し『完了』をクリックするとコンピュータは再起動します。

1-3. ユーザー登録のお願い

完全消去マスター 3のテクニカルサポート、バージョンアップなどを受けるためにユーザー登録が必要です。オンライン登録(弊社ホームページ、<http://www.fli.co.jp/>)によりユーザー登録していただけます。

1-4. 完全消去マスターの起動と終了

常駐機能

完全消去マスターインストールするとフォルダ、ファイルを完全に消去する機能が追加されます。『エクスプローラ』を開いて消去したいフォルダ、ファイルにマウスカーソルを合わせて右クリックするとメニューが表示されます。その中に『完全データ消去』という項目が追加されています。また、フォルダ、ファイルを消去するための『DM 焼却炉』というアイコンがデスクトップに追加されます。これらは、特別に起動する必要なく、インストール後は、いつでも、ご利用いただけます。

起動

【スタート】メニューを表示させ、【すべてのプログラム】(または【プログラム】OSによって表記が異なります)にマウスカーソルを合わせるとPCにインストールされたプログラムが表示されます。完全消去マスターのフォルダから【完全消去マスター 3.0】を選択してください。完全消去マスターが起動します。

終了

【終了】をクリックすると完全消去マスターを終了します。

2. 完全消去マスターの概要

2-1. 完全消去マスターとは

完全消去マスターはハードディスクの内容を、二度と復元できないように削除するアプリケーションです。

ハードディスクに記録された情報は、通常の手順で削除したり、ハードディスクそのものをフォーマットしても、ある程度の確率で復元することが可能です。

Windows を始めとするオペレーションシステムでは、「削除」「ごみ箱を空にする」「フォーマット」によって記録したデータが利用できなくなります。しかし、このような「通常」の手段では『FAT(ファイルアロケーションテーブル)』やNTFSの『ツリーカタログ』というデータの保管場所を示す「目録」の索引情報だけが削除されます。これらの項目を削除すると、OS からデータを読み出すことができなくなりますが、データそのものは残っていますので技術的には削除後の復元が可能な状態にあります。完全消去マスターは、ハードディスクを特定のパターンや方式に則りデータを上書きすることで、残留するデータを消去し、リサイクルや廃棄した後に第三者によるデータの閲覧や流用を避ける事を目的としたアプリケーションです。

2-2. 完全消去マスターの機能

完全消去マスターは、ハードディスク内の情報を完全に消去する機能を持っています。

1) ファイル・フォルダの完全消去

- ・ コンテキストメニューからの完全消去
システムに常駐し、右クリックで表示されるメニューから完全消去マスター を起動させて、その場で、ファイルやフォルダを消去できます。
- ・ デスクトップに焼却炉
ファイルやフォルダをデスクトップのDM 焼却炉にドロップすることで、ファイルやフォルダを完全に消去します。
- ・ ディレクトリツリーから選択して消去
ツリー表示でディスク内のファイルを探して、消去が可能です。
エクスプローラに似たディレクトリを表すツリー表示から、消去するフォルダを選択できます。
シフトキー併用で連続選択、Altキー併用で不連続選択も可能。選択したファイル・フォルダはボタンクリックで、一括消去できます。
- ・ 検索消去
ファイル名、作成日、サイズ等で、検索を行い、検索された対象に対して、消去を実行することが可能です。エクスプローラの検索と同様の検索条件の指定(昨日作成したワードファイルすべて等)を行って、消去するファイルをしていることが出来ます。
またワイルドカードとして「*」を指定することで、ファイル名が一部だけ一致するファイルすべてを一度に検索して消去することも出来ます。
- ・ スケジュール消去
フォルダを指定し、曜日と時刻、もしくは、日付と時刻を指定すると、指定日時に、その内容(フォルダ内のファイル)を消去します。

2) ワイブ機能

パーティションの空き領域に完全消去処理を行い、ファイルの残滓を完全に消去します。

3) ハードディスクの完全消去

ハードディスク(パーティション)の内容を完全に消去します。

起動パーティションは操作対象外となり消去できません。

Windows2000 および windowsXP でデュアルブート環境を構築している場合、NT ロードに記述された起動パーティションは操作対象外となり消去できません。

4) システムディスクの完全消去

製品CDもしくは、作成していただきました起動フロッピーディスクにより起動パーティションを完全に消去します。新たに、ビープ音のオンオフ、消去ログの保存先の指定が可能です。起動フロッピーディスクに、消去の設定を記したテキストファイルを保存する事で、フロッピーディスクからの起動時に自動的に消去を実行できます。

5) 外付けハードディスク、リムーバブルメディアに対応

完全消去マスターは、IDEおよびSCSI接続の内蔵ハードディスクに対応するほか、IEEE1394、USBにより外付けされたハードディスクにも対応しています。また、MOなどのリムーバブルメディアの内容も完全に消去することができます。

6) 複数の消去方法を採用

完全消去マスターはハードディスクにデータを書き込むことによって、ハードディスクから削除した内容を復旧できなくします。

どの消去方法でも、通常の方法で削除したファイルを復元するアプリケーションを無効化しますが、ハードディスクプラッタを取り出した上で、磁化反転パターンを磁氣的、または電氣的に読み取って内容を解析する方法に対抗するには、一回だけ特定パターンを書きこんでも、そのパターンを取り除くことで解析が可能になる場合があるため、基本的には書き込み回数は多いほうが万全となります。

コマンドラインツールの搭載

ファイルやフォルダを Windows のコマンドラインから完全消去できます。勿論、Windows 上のファイル消去と同じ機能をご利用いただけます。

ログ機能

新たに、ファイル消去のログ機能を搭載し、どのファイルを消去したか、いつ作業を行ったかを自動的に記録します。記録が必要な場合にこのログを見てください。但し、管理者であれば、ログファイルそのものの改ざんも可能ですので、管理者権限の管理には十分お気をつけ下さい。

作成場所は、ファイル消去時のログを Windows\system32 のフォルダ内に『dm3.log』という名前で作成します。このログファイルは、テキストファイルですので、NotePad 等でも容易に閲覧できます。

3. 完全消去マスターを使う

ディスク消去

3-1. 完全消去マスターの基本画面

完全消去マスターは『消去』と『ビューワー』、『WIPE』タブから構成されています。タブをクリックするとそれぞれの画面を表示します。

消去

消去を行う画面です。



- ・ドライブ選択プルダウンリスト
物理的に接続されているドライブを選択することができます。
- ・パーティションリスト
物理ドライブに作成されているパーティションを表示します。
「消去」「ビューワー」において対象となるパーティションをこのリストから選択します。
- ・消去方式
「消去」の際の消去方式を選択するプルダウンリストです。
- ・消去ボタン
パーティションリストで選択したパーティション(またはディスク全体)を消去します。
- ・クリア
リストの選択状況をなにも操作していない状態に戻します。
- ・ディスク情報
ハードディスクドライブのモジュール番号(機種名)、firmwareのバージョン、ドライブのシリアル番号、容量を表示します。これらはレポートにも含まれます。
- ・オプション
各オプションにチェックを付け、OKをクリックすると有効になります。
 - ・消去処理後に検証：上書き処理による消去を実行する際に、正しく上書きされたか否かを検証します。
 - ・パーティション消去後にFAT/NTFSでフォーマット：パーティションの消去処理後に、既存のフォーマットでクイックフォーマットを行います。FATからNTFS、またNTFSからFATへの変更というように、他のフォーマットに変更することは出来ません。
 - ・ビープ音無し
このチェックを付けると、作業終了時等のビープを鳴らしません。

ビューワー

ハードディスクの内容を 16 進数でダンプリストします。



消去後のハードディスクは MBR 等を消去するのでドライブとして認識することはできません。

従って、ビューワーでダンプすることもできません。

- ・ 表示

パーティションリストで選択したパーティションの内容をダンプリスト表示します。

- ・ クリア

リストの選択状況をなにも操作していない状態に戻します。

WIPE (ワイプ)

パーティション、ドライブのワイプ消去を行う画面です。



- ・ ドライブ選択プルダウンリスト

物理的に接続されているドライブを選択することができます。

- ・ パーティションリスト

物理ドライブに作成されているパーティションを表示します。

ワイプ対象となるパーティションをこのリストから選択します。

- ・ 消去方式

「消去」の際の消去方式を選択するプルダウンリストです。

- ・ ワイプボタン

パーティションリストで選択したパーティション(またはディスク全体)の、未使用の領域を消去します。つまり、現在、存在するファイルに影響を与えることなく、ファイルが存在しないとされている領域に、完全消去の上書き処理を実施し、ゴミ箱を空にしたり、アプリケーションが自動的に作成消去した作業ファイル等の結果、残っているファイルの痕跡を完全に消去します。

- ・ クリア
リストの選択状況をなにも操作していない状態に戻します。
- ・ 焼却炉を表示
チェックを外すと、デスクトップの焼却炉アイコンを削除し、付けると、焼却炉アイコンを表示します。
- ・ ビープ音無し
このチェックを付けると、作業終了時等のビープを鳴らしません。

3-2. 『消去』タブでの操作方法

起動パーティション以外のパーティションを消去します。

ハードディスク内のパーティションに割り当てられたドライブレターを『マイコンピュータ』の表示で確認してください。通常、C: ドライブに Windows システム本体がありますが、このドライブは起動パーティションなので本操作の対象にはなりません。

- 1) 『消去』タブをクリックしてください。
- 2) 消去したいパーティション(ドライブ)を選択してください。ハードディスクを複数台接続している場合は、プルダウンリストから物理ドライブを選択してください。

注意

起動パーティションは選択できません。

Windows 2000 や Windows XP において NT ローターによるデュアルブート環境を構築している場合、起動に必要な書類のあるパーティションは選択できません。「C」ドライブに Windows 2000 をインストールし、「D」ドライブにインストールした Windows XP をデュアルブートにした場合、Windows 2000 を起動させると「C」「D」ドライブ共選択できません。

注意

書き込みできないドライブは選択できません。

CD-ROM、CD-R/RW、DVD-ROM/R/-RW/RAM は選択できません。

また、書き込み禁止されている光学メディアや上書きできない DVD+R も消去できません。

注意

ウイルス対策アプリケーションは停止させてください。

メールクライアント、チャット等のネットワーク機能も停止させてください。

- 3) 消去方式を選択してください。

消去方式には以下のものを用意しています。書き込み回数の多いほど作業時間が長くなります。標準的には、NSA 方式以上であれば、十分と思われますので、NSA 方式をお勧め致します。

消去方法	書き込み内容	書き込み回数
ゼロ1回書き込み	00	1回
1を1回書き込み	FF	1回
乱数1回書き込み	乱数	1回
NSA方式	乱数2回→00	3回
旧NSA方式	FF→00→FF→00	4回
米国防総省方式	固定値2回→乱数1回→検証	3回
NATO方式	00→FF→00→FF→00→FF→指定データ	7回
Gutmann方式	乱数4回→固定値27回→乱数4回	35回

NSA :

The National Security Agency(米国家安全保障局)

Gutmann :

Gutmann 方式は、オークランド大学の Peter Gutmann 氏が推奨する消去方式で、データの記録されていた痕跡を消し、磁気顕微鏡等での磁化反転パターンの読み取りも不可能にする理論を実装したものです。

4) オプションを選択してください。

『消去処理後に検証』オプションを選択しますと、処理時間が若干長くなります。エラーが見つかった時にのみ、エラー表示を行い、正常な場合には、メッセージは表示しません。

『パーティション消去後に FAT/NTFS でフォーマット』: 既定では、このチェックは付いていません。このオプションを選択しますと、パーティション消去処理の後、クイックフォーマットを行い、パーティション(ドライブ)は、そのまま、使用することが出来ます。このオプションを選択しない場合、パーティションの内容のみならず、パーティション情報も消去され、空き領域になり、ドライブレターも無くなります。この空き領域には、新規にパーティションを作成することが出来ます。

5) 『消去』をクリックすると確認の画面が表示されます。内容に間違いがないか確認してください。『続ける』をクリックすると指定した方式でデータが上書きします。

注意

ウイルス対策アプリケーションが動作している場合、MBRに修正が加えられることを警告する画面が表示される場合があります。ウイルス対策ソフトを停止するのが、確実ですが、動作させたままの場合には、MBRは完全消去マスターにより書き換えられますので、作業の続行を選択してください。

6) 作業の進行状況が表示されます。作業が終了すると今回の作業のレポート(作業内容を示すテキストファイル)を残すための画面が表示されます。

『保存』をクリックすると「名前を付けて保存」画面が表示されます。必要であれば作業内容を示すテキストファイルに名前を付けて保存することができます。

『いいえ』をクリックするとレポートを作成せず作業を終了します。

7) 消去が終了すると、オプションで、『パーティション消去後に FAT/NTFS フォーマット』を選択していない場合には、消去が終了すると、パーティションが抹消され、ドライブレターの割り当てが変更されますので、再起動してください。消去したパーティションは既に存在しませんので、システムからは認識できなくなります。再利用する場合は、領域を確保し直す必要があります。Windows Me/98/95 では「fdisk」を Windows 2000/XP/NT4.0 では「ディスクの管理」で領域を確保してください。

3-3. 『ビューワー』タブでの操作方法

ハードディスクの内容を 16 進数と ASCII イメージによるダンプリスト表示します。

- 1) 『ビューワー』タブをクリックしてください。
- 2) 内容を見たいパーティション(ドライブ)を選択してください。ハードディスクを複数台接続している場合は、ブルダウナリストから物理ドライブを選択してください。
- 3) 『表示』をクリックするとダンプリスト画面が表示されます。この画面ではセクタごとの内容をダンプします。

[前へ],[次へ]
セクタを移動します。
[セクタ指定]
セクタを指定できます。
[閉じる]
ダンプリスト画面を閉じます。



3-4. 『ワイブ』タブでの操作方法

ゴミ箱を空にしたり、アプリケーションによる一時ファイルの削除等、完全消去によらずに削除されたファイルは、復元される可能性があります。ワイブ機能を利用して、これら、不用意に残されたファイルの痕跡を跡形無く消去することが出来ます。ワイブの手順は以下のようになります。

- 1) 『WIPE』タブをクリックしてください。
- 2) ワイブ処理を行いたいパーティション(ドライブ)を選択してください。ハードディスクを複数台接続している場合は、プルダウンリストから物理ドライブを選択してください。
注意
書き込みできないドライブは選択できません。
CD-ROM、CD-R/RW、DVD-ROM/R/-RW/RAM は選択できません。
また、書き込み禁止されている光学メディアや書きできないDVD+R も消去できません。
注意
ウイルス対策アプリケーションは停止させてください。
メールクライアント、チャット等のネットワーク機能も停止させてください。
- 3) 消去方式を選択してください。
消去方式には以下のものを用意しています。書き込み回数の多いほど作業時間が長くなります。
また、空き容量に対して、処理を行いますので、パーティション全体が大きくても、空きが少ない場合には、速く処理が進みます。標準的には、NSA方式以上であれば、十分と思われますので、NSA方式をお勧め致します。

ファイル消去

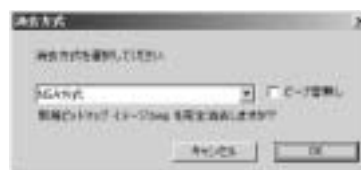
3-5. ファイル・フォルダの削除

「ごみ箱」で削除したフォルダ・ファイルはソフトウェアで復元することができます。完全消去を使うと任意のフォルダ・ファイルを完全に消去することができます。

- 1) 消去したいフォルダ・ファイルにマウスカーソルを合わせ右クリックし、表示されるメニューから「完全データ消去」を選択してください。
- 2) あるいは、デスクトップの「DM 焼却炉」をダブルクリックするか、スタートメニューから、「ファイル消去」アプリケーションを起動してください。アプリケーションウインドウ左のディレクトリツリーから、目的のファイル・フォルダを含むフォルダをクリックして、画面右で、消去したいファイル・フォルダをクリックします(下図)。



連続して複数ある場合は、Shiftキーを併用し、離れて複数ある場合は、Altキーを併用して、ファイルを選択し、消去ボタンをクリックします。消去方法を選択する画面が表示されます(下図)。



【OK】をクリックすると、消去を確認する画面が表示されます(右図)。
この画面では対象となるファイルのコピーを残すことも可能となります。



『コピーして消去』をクリックすると保存先を指示する画面が表示されますので、コピーを保存する場所を指定してください。【OK】をクリックすると確認画面に戻ります。ここで【OK】をクリックするとファイルを削除し完全に消去します。

3) スケジュール消去機能

スタートメニューから、「ファイル消去」アプリケーションを起動し、スケジュールボタン、もしくは、スケジュールメニューからスケジュール編集を選びます。スケジュール編集ウィンドウが開きます（右図）。スケジュール追加ボタンをクリックすると、スケジュールウィンドウが開きます（右下図）。ここで削除するフォルダを指定します。フォルダを指定した場合、そのフォルダの中にあるファイルを消去します。もし、ここで、ファイルを指定すると、その特定のファイルを消去するようになります。スケジュールを実行する日時を決めます。また消去方式と、ログに記録するかどうか指定します。マイドキュメント等の特殊フォルダは表示しませんので、お手数ですが、ハードディスク上のフォルダの位置をご確認の上、操作を行ってください。例えば、Windows XPの場合、マイドキュメントの実体は、C:\Documents and Settings フォルダ内のユーザアカウントのフォルダの中のMy Documentsになります。



スケジュール消去の場合、ファイルのバックアップは行いません。十分、ご注意ください。リストから、既存のスケジュールを選び、『スケジュールを修正』ボタンをクリックする事で、そのスケジュールを変更する事ができます。また、『スケジュールを削除』ボタンをクリックする事で、そのスケジュールを削除する事ができます。

4) 検索消去機能

スタートメニューから、「ファイル消去」アプリケーションを起動して、検索ボタンをクリックします。ディレクトリツリー表示が、検索条件画面に切り替わります（右図）。

はじめに、検索対象のプルダウンメニューから、ドライブを選択してください。もし、ツリー表示画面で、特定のフォルダを見ていた場合、このメニューから、そのフォルダのパスも選べます。

ファイル名や日付、その他の条件を設定してください。

なお、ファイル名には、ワイルドカードとして、『*』を1つだけ指定できます。

条件の指定が終わりましたら、検索ボタンをクリックしてください。

条件に一致するファイルを画面右にリストします。

右のリストに目的のファイルが検出されましたら、マウスクリックで選択してください（シフトキーやコントロールキーを併用して複数選択できます）。

画面上の消去ボタンをクリックすると、通常のファイル消去確認のダイアログが表示されますので、必要なオプションを選択してください。



5) コマンドラインツール

通常の Windows アプリケーションとともに、インストールフォルダに、DMF.exe ファイルが、インストールされます。

このアプリケーションは、Windowsのコマンドプロンプトからご利用になれるコマンドラインツールです。消去処理を自動化する場合、Bat ファイルを作成し、タスクに登録したり、単独で起動される事と思いますが、その際に、DMF.exe コマンドもご利用いただけます。なお、インストーラは、実行パスへの登録は行いませんので、ご利用の際には、フルパスで指定していただくか、事前に実行パスにご登録の上、ご利用ください。

DMF のオプション

DMF は、実行時に、いくつかのオプションを取ります。以下に、オプションとして利用できるものを挙げます。

・S" 設定ファイルへのフルパス "

設定ファイルの書式は、通常オプションと同じで、-S オプション以外をすべて 1 行で書くだけです。

・F" 消去対象のファイルもしくはフォルダのフルパス "

・M 消去方式

下記の書式で、消去方式を指定する事ができます。

・M0 : 0 書き込み

・M1 : 1 書き込み

・M2 : 乱数書き込み

・M3 : NSA 方式

・M4 : 旧 NSA 方式

・M5 : DoD 方式

・M6 : NATO 方式

・M7 : Gutmann 方式

・B : 指定されると、消去完了等の際に、ピープ音を鳴らします。指定が無ければ、エラーがある場合でも、無音のまま、処理を終えます。

・N/n : このオプションが指定されると、消去確認の Y/N の問い合わせを行わない。このオプションが無い場合には、消去処理の実行前に、必ず、Yes か No を問い合わせます。

DMF のオプションの例

以下では、DMF は実行パスに登録されているものとします。

DMF -FC:¥Temp.dat -M3 -N

この指定の場合、C:¥Temp.dat ファイルを、NSA 方式で、確認せずに、消去し、ピープ音を鳴らしません。

4. システムディスクの消去

4-1. 起動パーティションを削除する方法

システムを含むパーティションは Windows アプリケーション上からは消去出来ません。データ領域だけでなく、システム領域も完全に消去するには「システムディスク消去アプリケーション」を使用します。

「システムディスク消去アプリケーション」は「システムディスク消去 FD」、または完全消去マスターの製品 CD-ROM から起動します。

「システムディスク消去 FD」は「システムディスク消去 FD 作成ツール」によって作成します。完全消去マスター製品 CD-ROM は起動可能な CD-ROM になっています。CD-ROM でシステムを起動させると「システムディスク消去アプリケーション」が起動します。

4-2. システムディスク消去 FD を作成する

- 1) フロッピーディスクドライブにフォーマット済みの書き込み可能なフロッピーディスクを挿入してください。
- 2) 完全消去マスターの製品 CD-ROM をセットしてください。
- 3) IE が起動したら、起動 FD の作成のリンクをクリックするか、【スタート】メニューから【ファイル名を指定して実行】を選択してください。【ファイル名を指定して実行】では、Windows XP/2000/NT4.0 と Windows Me/98/95 で操作が異なります。それぞれつぎのように操作してください。
Windows XP/2000/NT4.0
『E:\createfd\2000\dmfd.exe』と入力してください。(CD-ROM ドライブ「E」の場合です)
Windows Me/98/95
『E:\createfd\9x\dmfd.exe』と入力してください。(CD-ROM ドライブ「E」の場合です)
表示される画面の【続ける】をクリックしてください。『キャンセル』で作成作業を中断します。
- 4) 「システムディスク消去 FD」が作成されます。【OK】をクリックすると作成作業を完了します。

4-3. システムディスク消去アプリケーションの起動

「システムディスク消去アプリケーション」は作成した「システムディスク消去 FD」、または完全消去マスター製品 CD-ROM により起動します。

「システムディスク消去 FD」の起動

フロッピーディスク

- 1) システムが起動している状態で、「システムディスク消去 FD」をフロッピーディスクに挿入してください。
 - 2) システムを再起動させてください。
 - 3) 「システムディスク消去 FD」が起動します。
- CD からの「システムディスク消去アプリケーション」起動

- 1) システムが起動している状態で、完全消去マスター製品 CD-ROM を CD ドライブにセットしてください。
- 2) システムを再起動させてください。
- 3) CD-ROM から「システムディスク消去アプリケーション」が起動します。

注意

起動可能な CD は次のような条件で動作します。

- ・ ATAPI 接続の CD-ROM ドライブでは、BIOS の起動オプションの設定で、起動順序に CD ドライブを指定できること。
- ・ SCSI 接続の CD-ROM ドライブでは、SCSI ホストアダプタが CD 起動に対応していること。

初期画面

パーティションの消去

ディスクの消去

ビューワー

特別なオプション

DM.exeをDOS起動フロッピーディスクにコピーされた場合、autoexec.bat ファイル内や、DOS プロンプトで、次のコマンドラインオプションが利用できます。

-A このオプションは、検出したすべてのディスクを消去します。

-DDiskNum は、指定の DiskNum のディスクを消去します。

1 が最初のディスク、2 はセカンダリ、等。

-LDriveLetter は、DriveLetter で指定したドライブレターのパーティションを消去します。

-SDelMethod は、消去方式を指定します。数字で指定します。

指定例

autoexec.bat 内や、DOS のプロンプトに、次のように書きます。

dm.exe -LD -S3

DOS フロッピーディスクの autoexec.bat に記述された場合、そのフロッピーディスクで PC を起動しますと、ユーザの確認無く、D:ドライブを NSA 方式で消去します。

なお、このオプションは、非常に強力なため、その指定する内容について確信が無い場合(目的のドライブが特定のドライブレターになるかどうかはコンピュータの構成に依存します) ご利用にならない事をお勧めします。

4-4. パーティションの消去

パーティションの内容を消去し、パーティション自体も消去します。

パーティションに割り当てられた領域に指定した方式でデータを書き込み、パーティション領域を開放します。

- 1) 消去したいパーティションの存在する物理ドライブを選択してください。ハイライトバーを[] キーで上下させてください。対象となるドライブにハイライトを合わせ[Space]キーを押すと先頭に「*」が表示されます。
1 台のハードディスクしか接続していない場合でも、[Space]キーを押して先頭に「*」を表示させてください。
[TAB]キーを押すとつぎの設定に移ります。
- 2) 選択したドライブのパーティションがリストされます。消去したいパーティションを選択してください。
ハイライトバーを[] キーで上下させてください。対象となるドライブにハイライトを合わせ[Space]キーを押すと先頭に「X」が表示されます。
1 台のハードディスクしか接続していない場合でも、[Space]キーを押して先頭に「X」を表示させてください。
- 3) 消去方式は「NSA 方式」がデフォルトで設定されています。変更する場合、【Delete [M]ethod】にカーソルを合わせて[Enter]キーを押してください。
消去方式の一覧が表示されますので、必要な方式を選択してください。
- 4) 【View Partition】にカーソルを合わせて[Enter]キーを押すと、選択しているパーティションの現在の内容を 16 進数と ASCII イメージでダンプ表示することができます。
- 5) 【Delete】にカーソルを合わせて[Enter]キーを押すと、確認の警告画面が表示されます。【Apply】を実行するとパーティションを消去します。
- 6) 作業の進行状況が表示されます。作業が終了すると今回の作業のレポート(作業内容を示すテキストファイル)を残すための画面が表示されます。【Save report】を選択すると、フロッピーディスクにレポートを保存する画面が表示されます。
フォーマット済みのフロッピーディスクを挿入し、【Save report】を選択するとレポートが保存されます。
このとき、レポートの保存先を変更する事ができます。例えば、CD 起動の場合、CD が A:ドライブレターを賦与されるので、実際のフロッピーディスクは、B:になります。また、C:ドライブが FAT の場合、C:保存する事も可能です(複数のパーティションを持つディスクの C:を消去した場合、こ

の保存先指定のウインドウでの C: が、実際にどのドライブになるかは事前には分かりません。
7)【[F]inish】を選択すると作業を終了し初期画面に戻ります。

4-5. ハードディスクの内容の消去

指定したハードディスクドライブの内容をすべて消去します。

ハードディスクの内容は指定した方式でデータが書き込まれます。作成されている領域はすべて開放されるため、転用する場合は再度、基本領域を割り当てする必要があります。

- 1) 消去したい物理ドライブを選択してください。
ハイライトバーを[]キーで上下させてください。対象となるドライブにハイライトを合わせ[Space]キーを押すと先頭に「*」が表示されます。
1 台のハードディスクしか接続していない場合でも、[Space]キーを押して先頭に「*」を表示させてください。
[TAB]キーを押すとつぎの設定に移ります。
- 2) 消去方式は「NSA 方式」がデフォルトで設定されています。変更する場合、【Delete [M]ethod】にカーソルを合わせて[Enter]キーを押してください。
消去方式の一覧が表示されますので、必要な方式を選択してください。
- 3)【[V]iew Partition】にカーソルを合わせて[Enter]キーを押すと、選択しているパーティションの現在の内容を 16 進数と ASCII イメージでダンプ表示することができます。
- 4)【[D]elete】にカーソルを合わせて[Enter]キーを押すと、確認の警告画面が表示されます。【[A]pply】を実行すると消去作業を開始します。
- 5) 作業の進行状況が表示されます。作業が終了すると今回の作業のレポート(作業内容を示すテキストファイル)を残すための画面が表示されます。【[S]ave report】を選択すると、フロッピーディスクにレポートを保存する画面が表示されます。
フォーマット済みのフロッピーディスクを挿入し、【[S]ave report】を選択するとレポートが保存されます。
- 6)【[F]inish】を選択すると作業を終了し初期画面に戻ります。

4-6. ビューワー

ハードディスクの内容を 16 進数と ASCII イメージのダンプリストで表示します。

表示はセクタごとに行われ、表示セクタを指定することもできます。

[PageUp]および[PageDown]キーで表示セクタを切り替えます。

5. インターネットクリーナー機能

ブロードバンドによる常時接続によって、インターネットの環境は大きく変わりました。IEのキャッシュや履歴は、『時間の節約』にははならなくなってきましたし、Windowsは一時ファイルで溢れかえる状況(ディスク容量が大きいので昔ほど問題ではありませんが)になる事もあります。色々なサイトを見ているとCookieもある程度受け入れてしまう設定であるので、定期的なメンテナンスが必要と思われる。そこで、IE回りを簡単にメンテナンスするためのユーティリティとして、本ソフトウェアを開発しました。出来る事は、キャッシュ、Cookie、履歴、一時ファイルの削除、サイトパスワードの消去、お気に入りのサイトの情報は残す事、また、これらの消去作業をある程度自動化する事(スケジュール)。おまけとして、SSLキャッシュの削除やネットワークパラメータの変更、IEのポップアップウィンドウの抑制も可能です。

5-1. 使用方法

- ・インストールして再起動した後は、タスクトレイにアイコンが常駐します。こちらから呼び出すのが早いです。
- ・タスクトレイアイコンをダブルクリックしてメイン画面を開くと、IE関連の消去のタブになりますから、キャッシュ、Cookie、履歴の内、消したいボタンをクリックすると、その項目のリストが表示されます。



残したいサイトの項目を選んで、『除外リストに登録』をクリックします。そして、すべてを選択をクリックすれば、『除外リスト』に登録した以外すべてが消えます。また、個々に選んで、そのまま削除をクリックすれば、(除外リストにあるサイト以外のものは)削除されます。一時ファイルとサイトパスワードは、個々に選択出来ないで、すべて削除したい場合は、それらのボタンをクリックした後、確認ダイアログで『はい』をクリックします。なお、キャッシュ等、その数が多いものを削除する際には、一時的に反応が無くなるほどの負荷がかかる事があります。しばらくすれば、正常に戻りますので、ご心配なさらないでください。

- ・除外リストのタブを確認しましょう。

ここには、消えて欲しくないサイトのホスト名(www.microsoft.comを例に挙げると、microsoft.comはドメイン名、www.microsoft.comがホスト名です)が並んでいる筈です。もう要らなくなったホストがあれば、選択して削除出来ます。ホストがこのリストにある限り、そこからのキャッシュもCookieも履歴も、このソフトウェアは削除しません。

- ・スケジュールのタブが（おそらく）最も重要な機能（但し、開く事は稀）です。ここで、先ほど手作業で行った削除作業を自動化出来ます。除外リストに必要なホスト名がすべてある事を確認したら、消したい種類にチェックを付けて、実行時間を指定します。その曜日時刻にPCが起動していれば、自動的に処理を実行します。また、『終了の際に消去を実行』にチェックを付けておくと、Windowsを終了する度に、このタブ画面で設定した作業を行います。
- ・最後のタブの『設定』では、これ以外のオプションが選べます。XP専用とした2つの機能は書いてある通りのもので、「特に必要な」状況は少ないと思われます。

画面下にあるネットワークパラメータの変更は、ブロードバンドの速度に合わせて、Windowsのネットワークの設定を変更するものです。平均的に速度が向上するように変更しますが、もし変更後、特に変化が無ければ、チェックを外しても構いません（チェックが外れている場合は既定値が使用されます）

ポップアップウィンドウの抑制は、ある種のサイトを訪れた際に、自動的に複数のウィンドウが開くのを（可能な限り）阻止します。



最後の『削除のオプション設定』では、ファイルとして保存されているキャッシュ、Cookie、履歴、一時ファイルを削除する際に、『完全消去』機能を使うかどうかを指定出来ます。既定では、通常ファイル消去を行います。このオプションを選ぶと、消去方法から選べる強力な消去機能を利用出来ます。但し、処理時間が大幅に延びますので、通常の使用では、このオプションを選ぶ必要は無いでしょう。

5-2. タブ一覧

メイン画面にすべての機能が現れているので、これらを説明します。

『IE 関連の消去』タブ

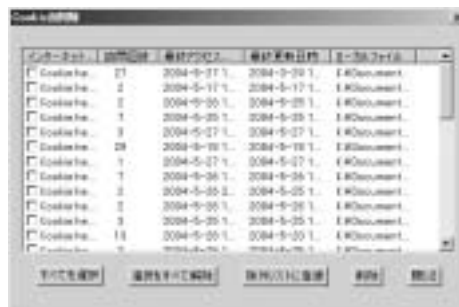
1. 『キャッシュの削除』ボタン

- ・ダイアログが表示され、キャッシュファイルのリストと幾つかのボタンが表示されます。キャッシュは、一度訪問したサイトの画像等のデータを一時的に保存して、その次の訪問の際に、表示時間を短くするために使われます。しかし、そのデータが更新されていた場合には、無駄になりますし、通信速度とコンピュータの処理速度が十分に速ければ、キャッシュする必要は余りありません。また、パスワードを送信した際のフォームのデータが残る等、セキュリティ上、問題があると考えられます。
- ・リストには、キャッシュファイルの一覧が表示されます。各キャッシュ毎の URL や訪問回数などが表示されます。
- ・ボタン『すべて選択』はリスト上のキャッシュファイルをすべて選択(チェックが付いた状態)します。『選択をすべて解除』はチェックを全て外します。『除外リストに登録』はチェックの付いたキャッシュの Host (URL の内、最初のバックスラッシュ / まで) を除外リストに登録します。このリストに登録された Host から送られたキャッシュは削除ボタンやスケジュールによる削除で消されません。『削除』ボタンは、チェックの付いたキャッシュファイルを削除します。『閉じる』ボタンは、このダイアログを閉じます。



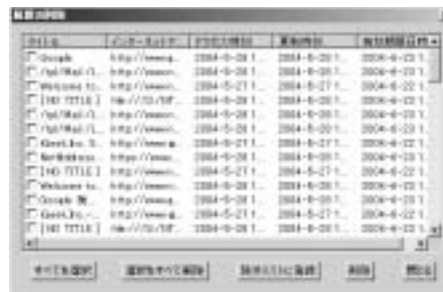
2. 『Cookie の削除』ボタン

- ・ダイアログが表示され、Cookie ファイルのリストと幾つかのボタンが表示されます。Cookie は、サイト側で訪問者を追跡するために使われます。内容はサイト側で送ってきたデータですので、訪問回数等、一般的にサイト側で把握できる内容になりますが、不注意なサイトでは、ユーザの入力したデータを Cookie に入れるケースもあり、セキュリティ上の問題となっています。
- ・リストには、Cookie ファイルの一覧が表示されます。各キャッシュ毎の URL や訪問回数などが表示されます。
- ・ボタン:『すべて選択』はリスト上の Cookie ファイルをすべて選択(チェックが付いた状態)します。『選択をすべて解除』はチェックを全て外します。『除外リストに登録』はチェックの付いた Cookie の Host (URL の内、最初のバックスラッシュ / まで) を除外リストに登録します。このリストに登録された Host から送られた Cookie は削除ボタンやスケジュールによる削除では消されません。『削除』ボタンは、チェックの付いた Cookie ファイルを削除します。『閉じる』ボタンは、このダイアログを閉じます。



3. 『履歴の削除』ボタン

- ダイアログが表示され、履歴ファイルのリストと幾つかのボタンが表示されます。履歴は、ブラウザが訪問したサイトの一覧です。ブラウザで一定期間が過ぎたデータは削除されますが、気になる場合は、定期的に削除する後述のスケジュールオプションをご利用ください。
- リストには、履歴ファイルの一覧が表示されます。各履歴毎のURLや訪問回数などが表示されます。
- ボタン:『すべて選択』はリスト上の履歴ファイルをすべて選択(チェックが付いた状態)します。『選択をすべて解除』はチェックを全て外します。『除外リストに登録』はチェックの付いた履歴のHost(URLの内、最初のバックスラッシュ/まで)を除外リストに登録します。このリストに登録されたHostのサイトの訪問した履歴は削除ボタンやスケジュールによる削除では消されません。『削除』ボタンは、チェックの付いた履歴ファイルを削除します。『閉じる』ボタンは、このダイアログを閉じます。



4. 一時ファイルの削除

Yes/Noの確認ダイアログが表示されます。一時ファイルは、Windows が一時的に使用したファイルで、通常は、現在使用中のもの以外、不要なものです。日常的に消去する必要はありませんが、月に一度程度消去されると良いでしょう。



5. サイトパスワードの削除

Yes/Noの確認ダイアログが表示されます。サイトパスワードは、サイト毎にブラウザが記憶しているユーザ認証です。もし、複数のユーザでご利用されているコンピュータでしたら、削除したほうが良いと思います。ご自分お一人でご利用であれば、削除しないほうが便利かと思います。



6. すべて削除

Yes/Noのみの確認ダイアログが表示されます。個別に選ぶことは無く、全ての項目を削除します。他人に機械を譲る場合等に便利です。

『除外リスト』タブ

- リストには、host 名(URL で最初の / まで。原則的にはそのサイトを持っているサーバと考えられます)がリストされます。このリストにあるHostは重要なサイトであると指定したことになります。ここのHostに関連した履歴、Cookie、キャッシュはどの削除オプションでも削除されません。



- ・『取り除く』ボタンは、上のリストでHostを選択して(反転させて)からクリックすると、そのHostを除外リストから外すことができます。取り除くのは、1 つずつになります。

『スケジュール設定』タブ

- ・『削除対象』では、どの種類の情報を整理するのかが選択します。
下記のチェックボックスにチェックを付けた項目が削除対象になります。
なお、削除の内容は個別に行う場合と同じです。

- IE キャッシュ
- IE 履歴
- IE のサイトパスワード
- IE Cookie
- Windows 一時ファイル



- ・『実行時刻の設定』
設定した日時に設定(チェック)された項目を削除します。
その日時にコンピュータが起動していなければ、実行されません。
- ・時刻の指定
- ・日付の指定：既定では、『スケジュール無し』になっています。
*必ず、実行させたい曜日(または毎日)を選んでください。
- ・『終了の際に消去を実行』チェックボックスにチェックがあると、Windows を終了する度に、スケジュールに設定した項目の削除を実行します。
- ・『今すぐ実行』ボタンは、今すぐにチェックの付いた項目を実行します。
- ・『適用』ボタンは、設定を記憶します。
- ・『ネットワークパラメータ (MacMTU) の変更』チェックは、通信速度が速くなると弊社開発チームが判断した値を設定します。チェックのオンオフの度に、再起動を要求します。
- ・『IE のポップアップウィンドウの抑制』チェックは、広告等のポップアップウィンドウを開かないようにします。但し、広告のポップアップウィンドウには様々な手法があるので、すり抜けてしまうものもあります。
- ・『実行時刻の設定』設定した日時に設定(チェック)された項目を削除します。その日時にコンピュータが起動していなければ、実行されません。
- ・時刻の指定
- ・日付の指定：既定では、『スケジュール無し』になっています。
*必ず、実行させたい曜日(または毎日)を選んでください。
- ・『終了の際に消去を実行』チェックボックスにチェックがあると、Windows を終了する度に、スケジュールに設定した項目の削除を実行します。
- ・『今すぐ実行』ボタンは、今すぐにチェックの付いた項目を実行します。
- ・適用ボタンは、設定を記憶します。

『設定』タブ

- ・XP 専用
- ・『MSN メッセンジャー』の削除ボタンは、Windows XP に最初からインストールされているMSN メッセンジャーを削除します。但し、Windows Update を行くと、再度インストールするように指示される事があります。
- ・『SSL キャッシュの削除』ボタンは、Internet Explorer が、SSL で保護されたサイトにアクセスした際のSSLセッションキーのキャッシュを削除します。通常、期限が切れたキーは使用されませんが、社内ポータル等、他に知らせないサイトや他人にコンピュータを譲る場合等は削除を行いましょう。
- ・削除オプション設定は、ファイルとして記録されている各項目を削除する方法を選びます。
- ・『完全消去』チェックにチェックを付けると、消去方法を選べます。
- ・『消去方法』リスト
 - 00、11、ランダムは、それぞれ、0 や 1 や乱数で出来たパターンを選択した項目の上に、一度だけ書き込みます。
 - ・NSA は、NSA 指定のパターンで、合計 3 回書き込みます。
 - ・旧 NSA も、同様に、合計 4 回書き込みます。
 - ・DoD 標準は、3 回書き込みます。
 - ・NATO は、合計で 7 回書き込みます。
 - ・Gutemann では、合計 35 回書き込みます(処理時間が 00 の場合の約 35 倍になります)。
- ・『ネットワークパラメータ (MacMTU) の変更』チェックは、通信速度が速くなると弊社開発チームが判断した値を設定します。チェックのオンオフの度に、再起動を要求します。
- ・『IE のポップアップウィンドウの抑制』チェックは、広告等のポップアップウィンドウを開かないようにします。但し、広告のポップアップウィンドウには様々な手法があるので、すり抜けてしまうこともあります。

デリートマスター DSP II 業務用

1.DSP 機能について

弊社では、消去業務を請け負われる業者様のための『DSP 版』を別途提供しております。

DSP 版では、使用許諾ライセンスが業務委託を受けられる業者様用に変更されている他、起動CDおよび起動フロッピーディスク用のディスク消去ツールを、接続されたディスクの逐次一括消去を行えるよう、機能を強化しております。

DSP 版をご購入のお客様は、下記の説明をご覧ください。

2.DSP 版に搭載されている機能

CD 起動もしくは、起動フロッピーディスクから起動した際、接続されているディスクを一括で消去指定する事が可能です。

初期画面では、下記のそれぞれの機能を選ぶ画面が開きます。

「Delete [P]artition」：パーティションの消去

「Delete [D]isk」：ディスクの消去

「Disk [V]iewer」：ビューワの表示

P を押すとパーティションの消去、D を押すとディスクの消去、V を押すとディスク情報の表示画面になります。

3. ハードディスクの内容の消去

指定したハードディスクドライブの内容をすべて消去します。

ハードディスクの内容は指定した方式でデータが書き込まれます。作成されている領域はすべて開放されるため、転用する場合は再度、基本領域を割り当てる必要があります。

- 1) 消去したい物理ドライブを選択してください。

ハイライトバーを[]キーで上下させてください。対象となるドライブにハイライトを合わせ

[Space]キーを押すと先頭に「*」が表示されます。

すべてのディスクを順次消去する場合、「All Disks」を選択してください。

[TAB]キーを押すとつぎの設定に移ります。

- 2) 消去方式は「NSA 方式」がデフォルトで設定されています。変更する場合、【Delete [M]ethod】にカーソルを合わせて[Enter]キーを押してください。

消去方式の一覧が表示されますので、必要な方式を選択してください。

- 3) 【[V]iew Partition】にカーソルを合わせて[Enter]キーを押すと、選択しているパーティションの現在の内容を 16 進数と ASCII イメージでダンプ表示することができます。

- 4) 【[D]elete】にカーソルを合わせて[Enter]キーを押すと、確認の警告画面が表示されます。【[A]pply】を実行すると消去作業を開始します。

- 5) 作業の進行状況が表示されます。作業が終了すると今回の作業のレポート(作業内容を示すテキストファイル)を残すための画面が表示されます。【[S]ave report】を選択すると、フロッピーディスクにレポートを保存する画面が表示されます。フォーマット済みのフロッピーディスクを挿入し、【[S]ave report】を選択するとレポートが保存されます。

注意

CD から起動している場合には、CD が A:ドライブ、フロッピーディスクは通常 B:ドライブとして認識されています。画面のオプションで、保存先を指定できますので、保存する前に、保存先ドライブをご確認ください。

- 6) 【[F]inish】を選択すると作業を終了し初期画面に戻ります。

4.DSP 版の使用方法的例

具体的な操作手順は、次項以降でご案内します。こちらでは、内蔵、外付け等の機器の種類によって、どの方法が最も効率が良いかを提案いたします。

まず、注意点を3つ挙げます。

1. 内蔵ディスク、特に、内蔵ドライブを複数台消去する場合や、消去専用マシンをご利用の場合については、下記の2)をご参照ください。

2. Linux 等、Windows 以外のフォーマットのディスクに関しても、物理的に PC に接続可能であれば、消去可能です。

3. 弊社製品は、Macintosh 非対応ですが、下記の機種種の Macintosh は、FireWire ターゲットディスクモード(TDM)をサポートしていますので、『外付けIEEE1394 ディスク』として消去することが可能です。

ディスクの種類別のご提案

1) IEEE1394 や USB 等によって接続された外付けハードディスク

これらは、プラグ & プレイ (活線挿抜) が可能ですので、作業用の PC を起動したまま、Windows アプリケーションから、ディスクを1つずつに消去作業を行う方が効率的です。

『完全消去マスターの Windows アプリケーションの基本画面』以降をご参照の上、操作を行ってください。なお、プラグ & プレイを行った場合、完全消去マスターアプリケーションを起動しなおす必要がある環境もございます。

2) IDE ディスク及び内蔵の SCSI ディスク

プラグ & プレイが出来ませんので、接続の際に電源を切る必要があります。この場合、CD から起動の方が起動時間を短縮できますので、接続後、完全消去マスターの製品 CD を挿入し、PC を起動してください。CD から起動した場合、キーボードからだけの操作になりますが、すべてのハードディスクを順次消去する設定がございますので、作業効率を上げられます。

『システムディスクの消去』の『システムディスク消去アプリケーションの起動』以降をご参照ください。

3) 増設ドライブも内蔵ドライブのみで構成されている PC の場合、2) と同様、ディスクをすべて消去する設定がございますので、CD から起動する方法をお勧めします。『システムディスクの消去』の『システムディスク消去アプリケーションの起動』以降をご参照ください。

4) 外付けの SCSI ディスク

現在、SCSI コントローラが BIOS から認識できるものが主流です。この場合であれば、2) の IDE ディスクと同様にプラグ & プレイが出来ませんので、内蔵ドライブと同じ扱いで、CD から起動し、消去する方が処理は速くなります。『システムディスクの消去』の『システムディスク消去アプリケーションの起動』以降をご参照ください。

BIOS から認識できないタイプのコントローラカードをご利用の場合は、Windows 上から処理を行ってください。『完全消去マスターの Windows アプリケーションの基本画面』以降をご参照ください。

FireWire、USB、RAID、その他、BIOS から認識出来ないデバイスに対しては、CD ブートや起動 FD からの動作保証は致しておりません。Windows からご利用ください。また、RAID システムに対しては Windows 上で認識出来る場合でも、ディスク情報は表示されません。また、CD ブート、起動 FD からは、未対応のドライブとなりますので、ディスクアレイを削除して、個別のドライブとして消去してください。

